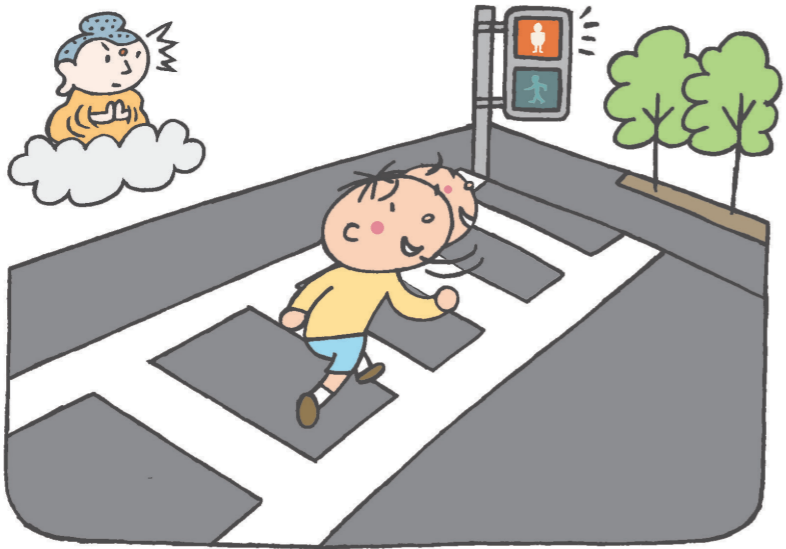


原文訳

「私はその報いを受けることはない」と思って悪を軽んじてはならない。水が一滴ずつ滴り落ちて水瓶を満たすように、小さな悪を重ねれば災いに満たされる。

(法句經 122)



おうちの方へ

なぜ悪いことをしてはいけないのか。佛教では悪業によって、その人も傷つくと教えています。悪いことをした人は、この世を去った後に「地獄に墮ちる」とも言われますが、現世でもなんらかの代償を支払うことが多いようです。

お子さんがそんな目に遭わないよう、悪いことをしたら自分に返ってくることを教えてあげてください。その際、「ほとけさまは、いつでもあなたを見ているよ」と伝えましょう。また、悪いことだけでなく、人知れず善いことをするのもほとけさまは見ています。善いことをするのは、自分自身のためにもなるのだということも、同時にわかってもらいましょう。

3

何を^{なに}するの^も
あたしは^み見て^{いる}よ



むかい風^{かぜ}にすなをなげると、そのすなが風^{かぜ}でもどつてきて、目^めや口^{くち}に入^{はい}ってつらい思^{おも}いをするよ。それと同じ^{おな}ように、わるいことをすると、自分^{じぶん}にもわるいことがおこるんだ。わるいことをしている時^{とき}、まわりにだれもいなくても、ほとけさまはきみのことを見^みています。友^{とも}だちをきずつける人^{ひと}やきまりをまもらない人^{ひと}を見^みると、ほとけさまはかなしい気^きもちになるんだよ。だって、いつかその人^{ひと}もきずつくことになるからね。